

研究活動報告

『筑波大学先史学・考古学研究』第 21 号

考古学実習(茨城県かすみがうら市・牛塚古墳)

常木晃, 大村冬樹, 中村真衣子, 増森海笑 D. (期間: 2009 年 11 月 9 日～14 日)

先史学実習(栃木県 佐野市・嘉多山公園内七輪窯)

三宅裕, 谷口陽子, 長谷川敦章, 鈴間智子, 村上尚子, 荒友里子 (期間: 2009 年 12 月 14 日～18 日)

川西 宏幸 エジプト, アコリス遺跡の発掘調査(科学研究費). *Preliminary Report AKORIS 2008* (共編著).

常木 晃 シリア, テル・エル・ケルク遺跡の発掘調査(科学研究費). シリア, ガーネム・アル・アリ遺跡の調査及びガーネム・アル・アリ村所在現代イスラーム墓地の民族考古学的研究(科学研究費). 国際シンポジウム「西アジアにおける土器の出現: パイロテクノロジーの原点を求めて」主催(学振国際研究集会). 「新石器時代の巨大集落—シリア、テル・エル・ケルク遺跡の 2008 年度調査—」『平成 20 年度考古学が語る古代オリエント』, “The archaeology of death in the Late Neolithic: a view from Tell el-Kerkh”, *Papers for Interpreting the Late Neolithic of Upper Mesopotamia, Leiden, Holland* (口頭発表). “Chapter 2 Tell -type settlements around Tell Mastuma”, “Chapter 3 Stratigraphy: 3.3. Neolithic and Early Bronze Age layers in Square 15Gc”, *Tell Mastuma: An Iron Age Settlement in Northwest Syria*. “Tell el-Kerkh 2007”, *Chronique Archéologique en Syrie: volume 3*, Direction General des Antiquités et des Musées. 「西アジアにおける農耕文化の始まり」『弥生時代の考古学 5: 食糧の獲得と生産』, 「西アジア」『世界の土器の始まりと造形』, *The Emergence of Pottery in West Asia: The Search for the Origin of Pyrotechnology, Presentation Summaries* (編著). “Ethno-archaeological research on the modern cemeteries of Ghanem al-Ali village”. *Formation of Tribal Communities, Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria. Tokyo, Japan*. 「国際シンポジウム「西アジアにおける土器の出現: パイロテクノロジーの原点を求めて」を終えて」『Newsletter セム系部族社会の形成』16.

三宅 裕 トルコ, サラット・ジャーミー・ヤヌ遺跡の発掘調査(科学研究費). 「西アジアにおける土器の起源を探索: トルコ、サラット・ジャーミー・ヤヌ遺跡第 4 次調査(2008 年)」『平成 20 年度考古学が語る古代オリエント』, 「西アジアからみた弥生文化の家畜飼育」『弥生時代の考古学 5 食糧の獲得と生産』, 「サラット・ジャーミー・ヤヌ遺跡」『世界の土器の始まりと造形』, 「古代メソポタミアにおける乳利用と乳製品」『Bulletin of Ancient Orient Museum』XXVIII. Diyarbakır İli, Salat Camii Yanı Kazısı. 30. *Kazı Sonuçları Toplantısı*, 2. Cilt. 「サラット・ジャーミー・ヤヌ遺跡(トルコ共和国)発掘調査概報: 2004-2008 年」『筑波大学先史学・考古学研究』20 (共著). 「西アジアにおける土器の起源を探索: トルコ、サラット・ジャーミー・ヤヌ遺跡第 4 次調査(2008 年)」『第 16 回西アジア発掘調査報告会』(口頭発表). *Regional Variation between the northern Levant and Upper Mesopotamia. Interpreting the Late Neolithic of Upper Mesopotamia. Leiden, Holland* (口頭発表). Diyarbakır İli, Salat Camii Yanı Kazısı, 2008. 31. *Kazı Sonuçları Toplantısı. Denizli, Turkey* (口頭発表). The Earliest Pottery at Salat Camii Yanı. *International Symposium on the Emergence of Pottery in West Asia: The Search for the Origin of Pyrotechnology. Tsukuba, Japan* (口頭発表). Emergence of Pottery as a Cooking Pot. *International Symposium on the Emergence of Pottery in West Asia: The Search for the Origin of Pyrotechnology. Tsukuba, Japan* (口頭発表). 「西アジアの土器」『シンポジウム 世界の土器の始まりについて』古代オリエント博物館(口頭発表).

谷口 陽子 中国, 新疆ウイグル自治区キジル千仏洞壁画群の技法調査(科学研究費). 油彩技法の起源に関する東西壁画の技法材料の比較研究(科学研究費). トルコ, カップドキア岩窟教会の壁画群の保存修復のための予備調査, 大エジプト博物館保存修復センター人材育成・技術移転事業(JICA). Recent applications and current trends in Cultural Heritage Science using Synchrotron-based Fourier transform infrared micro-spectroscopy, *Comptes Rendus de l'Académie des Science-Physique*, 10 (共著). Combination of FTIR and X-rays Synchrotron-

based micro-imaging techniques for the study of ancient paintings. A practical point of view, *e-Preservation Science*, 6 (共著). 「世界遺産」『2009 年度版ブリタニカ国際年鑑』. Painting materials and techniques of the Bamiyan Buddhist murals: micro-analysis using combination of synchrotron-based X-rays and GC/MS, *JSPS-IIAS Joint International Symposium on Conservation Technology for Cultural Heritages*, International Institute for Advanced Studies (国際高等研究所) (口頭発表). Preservation and Management of the UNESCO World Heritage Site of Bamiyan: Laser scan documentation and virtual reconstruction of the destroyed Buddha figures and the archaeological remains, *Digital Documentation, Interpretation & Presentation of Cultural Heritage, CIPA Symposium 11-15 Oct. 2009, Kyoto*. (口頭発表). 「シンクロトン放射光を用いた XRD/XRF 同時測定と μ FTIR イメージング・バーミヤーン壁画の事例から」『基盤研究「歴史資料に対する自然科学的調査法の開発と適用に関する研究」研究会』(口頭発表). 「バーミヤーン仏教壁画の色と技術」『International Workshop on History of Color in Asia : アジアの彩色材料の歴史を文化財に残る具体的な資料の分析を通して探る、龍谷大学古典籍デジタルアーカイブ研究センター 2008 年度研究集会』(口頭発表). 「アフガニスタン・バーミヤーン仏教壁画に関する調査と成果」『第 16 回西アジア発掘調査報告会』(口頭発表). 「アフガニスタン流出仏教壁画片の調査と修復」『第 31 回文化財保存修復学会』(ポスター発表).

花坂 哲 「アコリス遺跡における「豊饒の民間信仰」—土製ヒト形小像から探る—」『筑波大学先史学・考古学研究』20. *Preliminary Report AKORIS 2008* (共編著).

川島 尚宗 「縄文時代後・晩期における食料加工・消費の増大」*Asian and African studies* 13(1). Mounds and rituals in the Jomon period, *16th Neolithic Seminar, Ljubljana, Slovenia* (口頭発表).

バルディス・ミラグロス 研究計画：縄文時代物質文化の基礎的研究

池田 和美 Core-formed glass vessels from Sinai peninsula, Egypt, *18è Congrès de l'Association Internationale pour l'Histoire du Verre, Thessaloniki* (ポスター発表).

種石 悠 「民俗誌を用いた古代狩猟モデル—狩猟関連考古資料の解釈にむけて—」『動物考古学』26. 「名取市手倉田小山遺跡出土の古墳時代前期土器について」『宮城考古学』11. 「沖縄県宮古島市島尻長墓遺跡出土動物遺存体の年代測定と先島諸島先史文化研究」『第 4 回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集』中尾麻由実 「常陸における装飾古墳の出現とその背景」『湘南考古学同好会 第 4 回若手研究者を囲む会』(口頭発表). 「第 2 章 遺跡の周辺と環境 2-2 歴史的環境」『小坂城 II』(項目分担執筆).

長谷川敦章 「紀元前三千年紀におけるユーフラテス河中流域の集落と墓域の関連性—テル・ガーネム・アル・アリ出土人物形土製品の検討から—」『農耕と都市の発生—西アジア考古学最前線—』. *Sondage at the Site of Tell Ghanem al-Ali, Abstract of International Symposium: Formation of Tribal Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria*. Excavation at Tell Ghanem al-Ali, the Jabal Bishri, Syria, *Abstract of International Symposium: Geo-environmental Research in the Middle Euphrates, Syria*. Archaeological Research in the Bishri Region-Report of the Seventh Working Season-: 4. Trench excavation in Square 2 of Tell Ghanem al-Ali, *Al-Rāfidān* 30. 特定領域研究「セム系部族社会の形成」, 「テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の発掘調査—人物形土製品をめぐって—」『若手研究者成果発表会「ガーネム・アリとその周辺」』(口頭発表). *Sondage at the site of Tell Ghanem al-Ali, International Symposium: Formation of Tribal Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria. Tokyo, Japan* (口頭発表). Excavation at Tell Ghanem al-Ali, the Jabal Bishri, Syria, *International Symposium: Geo-environmental Research in the Middle Euphrates, Syria. Nagoya, Japan* (口頭発表). 「農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落—シリア, ビシュリ山系, テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の 2008 年度発掘調査—」, 「新石器時代の巨大集落—シリア, テル・エル・ケルク遺跡の 2008 年度調査—」『第 16 回西アジア発掘調査報告会』(共同発表). Early Bronze-age chronology deduced from radiocarbon ages of Remains from Tell Ghanem al-Ali site, Raqqa, Syria, *20th International Radiocarbon Conference. Kona, Hawaii*. (共同発表). 「青銅器時代ユーフラテス河中流域の拠点集落—テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の発掘調査 2009—」『第 51 回日本オリエント学会』(共同ポスター発表). 「シリアのユーフラテス河中流域にある Tell Ghanem al-Ali 遺跡発掘資料の 14C 年代」『セム系部族社会の形成 Newsletter』16 (共著). 「農

耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落ーシリア、ビシュリ山系、テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の 2008 年度発掘調査ー』『平成 20 年度考古学が語る古代オリエント』(共著)。「新石器時代の巨大集落ーシリア、テル・エル・ケルク遺跡の 2008 年度調査ー』『平成 20 年度考古学が語る古代オリエント』(共著)。

小野塚拓造 「鉄器時代の青銅製品・石製品・土製品」『エン・ゲヴ遺跡発掘調査報告 1998-2004』(共編著)。「イスラエル国シャロン平野の鉄器時代 1 期ーテル・ゼロール出土資料を視点にー」『筑波大学先史学・考古学研究』20。「古代パレスティナのオリーブ油生産ー前 2 千年紀後半の円形搾油施設をめぐってー」『日本オリエント学会 第 51 回大会』(口頭発表)。

清家 大樹 「動物利用を介して構築される社会関係ーボリビア北部高地、ティワナク遺跡とその周辺遺跡を事例としてー」『筑波大学先史学・考古学研究』20。「先スペイン期アンデスのラクダ科動物飼養についてーペルー北部と南部との比較からー」『古代アメリカ学会第 14 回研究大会』(口頭発表)。

鈴間 智子 「近世五輪塔が語る経済活動」松前町文化財講演会(口頭発表)。「近世墓標からみた日本海域の経済活動」『歴史人類学会第 30 回大会』(口頭発表)。

村上 尚子 「テル・アイン・エル・ケルク遺跡の墓地」『筑波大学先史学・考古学研究』20。「新石器時代の巨大集落ーシリア、テル・エル・ケルク遺跡の 2008 年度調査ー」『第 16 回西アジア発掘調査報告会』(共同発表)。「北西シリア、テル・エル・ケルクの新石器時代の墓地」『第 51 回日本オリエント学会』(共同ポスター発表)。

荒 友里子 研究課題：中央ユーラシア草原地帯西部における青銅器時代の金属生産と青銅器文化

大村 冬樹 「関東地方における人物埴輪の工人差」『歴史人類学会第 30 回例会』(口頭発表)。

中村真衣子 研究課題：西アジア新石器時代における石器製作活動。

増森海笑 D. 「デンタリウム貝からみたナトゥーフ文化における諸遺跡の様相」『考古学の扉』2。「ナトゥーフ文化研究史ノート」『東海史学』43。

平成 21 年度卒業論文・博士論文一覧

卒業論文(先史学・考古学コース)

飯塚 守人「西アジアにおける銅器時代の物資管理システムースタンプ印章および印影の視点からー」

石川 知行「西アジアにおける後期ローマ時代の墓制

ー北西シリア、テル・エル・ケルク遺跡の例を中心にー」

板橋 悠「骨コラーゲン同位体分析でみる新石器時代の食性パターン

ーシリア、テル・エル・ケルク遺跡出土骨の考察ー」

一井 悠平「備讃瀬戸地域におけるナイフ形石器の機能論ー使用痕分析を中心にー」

米田 浩之「埴伝分布論」

杉山 絢香「デザインから見る縄文時代の土製耳飾りー下ヶ戸宮前遺跡の事例からー」

平田 達也「植木鉢からみる江戸の園芸」

辰巳 祐樹「土器アセンブリッジから見る土器新石器時代の南北レヴェント」

田中理恵子「考古学の新聞報道ー新聞記事の分析と考察ー」

新井 改之「高等学校日本史教科書における変遷と考古学的成果の影響ー古代に関する記述からー」

博士論文(人文社会科学研究科)

川島 尚宗「縄文時代後・晩期社会の研究ー生産と饗宴からみた複雑化ー」